

令和2年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省R2-9)

施策名	目標3-3 水環境の保全(海洋環境の保全を含む。)				
施策の概要	水質汚濁に係る環境基準等の目標を設定して、その達成状況の改善を図るとともに、適切な地下水管理を推進し、健全な水循環の確保に向けた取組を推進する。また、海洋環境の保全に向けて国際的な連携の下、国内における廃棄物の海洋投棄の規制等による海洋汚染の防止を図る。さらに、海洋ごみ対策について、海岸漂着物処理推進法に基づく回収・処理、国内での廃棄物の適正処理等の推進による陸域等からの海洋ごみの発生抑制、海洋ごみの実態把握のための調査研究、国際的連携等に取り組む。				
達成すべき目標	水質汚濁に係る環境基準達成率の向上等により、健全な水循環の確保を目指す。また、廃棄物の海洋投棄の規制等により、海洋環境の保全を図る。				
施策の予算額・執行額等	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
	予算の状況(百万円)				
	当初予算(a)	2,716	5,558	6,209	2,572
	補正予算(b)	3,099	0	3,525	-
	繰越し等(c)	▲ 362	0	(※記入は任意)	
合計(a+b+c)	5,453	5,558	(※記入は任意)		
執行額(百万円)	5,242	4,576	(※記入は任意)		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) 水循環基本計画(令和2年6月16日閣議決定) 瀬戸内海環境保全基本計画(平成27年2月27日閣議決定) 海岸漂着物処理推進法に基づく基本的な方針(令和元年5月31日閣議決定)				

測定指標	1 公共用水域における水質環境基準の達成率(健康項目)(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	- 年度	
		-	99.2	99.2	99.1	99.2	-	100%	△
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	2 公共用水域における水質環境基準の達成率(生活環境項目BOD/COD)(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	- 年度	
		(河川)	95.2	94	94.6	94.1	-	100%	×
		(湖沼)	56.7	53.2	54.3	50.0	-	100%	
		(海域)	79.8	78.6	79.2	80.5	-	100%	
	全体	90.3	89	89.6	89.2	-	100%		
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	3 地下水における水質環境基準の達成率(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	- 年度	
		-	93.9	94.5	94.4	94	集計中	100%	△
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	- 年度	
		-	別紙のとおり					100%	×
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	5 地盤沈下監視を実施した地域の内、2cm/年を超える沈下が発生していない地域の割合(%)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	- 年度	
		-	93.1	100	77.4	93.5	集計中	100%	△
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	6 陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トン)	基準値	実績値					目標	達成
年度		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		
0		59	12	0	0	0	0	○	
年度ごとの目標		-	-	-	-	-			

評価結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり
	(判断根拠)
目標達成度合いの測定結果	<p>○健康項目全体(27項目)の環境基準達成率(令和元年度)は99.2%で、主要な測定指標はほぼ目標値に近い。なお、基準値超過の主な原因は、自然由来が最も多い。</p> <p>○生活環境項目(BOD/COD)の環境基準達成率(令和元年度)は、河川94.1%、湖沼50.0%、海域80.5%、全体89.2%であった。河川はほとんどの地点で環境基準を達成しており、概ね目標値に近いものの、湖沼は依然として達成率が低い状況にある。</p> <p>○地下水の環境基準達成率(令和元年度)は94%と概ね目標値に近い。</p> <p>○閉鎖性海域における窒素及びりん的环境基準達成率(令和元年度)は、東京湾100%、伊勢湾85.7%、大阪湾100%、瀬戸内海(大阪湾を除く)96.5%であり、窒素及びりんが総量削減の対象項目として追加された平成13年度(東京湾50%、伊勢湾57%、大阪湾33%、瀬戸内海(大阪湾を除く)98%)と比べて着実に改善してきている。</p> <p>○赤潮は人為的な要因によらず発生することもあり、赤潮発生件数をゼロにすることは困難であるが、近年は横ばい傾向となっており、最も件数の多い時期と比較すれば減少している(例えば、瀬戸内海では昭和51年度に299件発生、令和元年度は58件発生)。</p> <p>○海洋投入処分の許可制度の適正な施行や、陸上で発生した廃棄物の陸上での処理の推進により、陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量は減少傾向にあり、平成30年度以降はゼロを達成している。</p> <p>○地盤沈下監視(のための水準測量)が実施された地域が毎年異なるため、実績値は年によって変動するものの、令和元年度は93.5%であり、昨年と比較すると向上しているが、依然として地盤沈下が生じている地域がみられる。</p>
施策の分析	<p>○水質汚濁に係る環境基準等の設定について、国際的な動向及び国内データの蓄積に努め、公共用水域及び地下水の環境基準項目の追加、要監視項目の環境基準健康項目への移行等の検討が必要である。</p> <p>○地下水における水質環境基準は、全国的にほぼ目標を達成している。環境基準の超過率が最も高い硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素等については、引き続き目標達成に向けて生活排水の地下浸透、農地への過剰な施肥、家畜排せつ物の不適正処理などの取組が必要である。</p> <p>○閉鎖性海域における水質環境基準の達成率は、一部の地域で低く、目標達成に向けた更なる取組が必要である。</p> <p>○廃棄物の海洋投棄の規制等については、ロンドン条約、マルポール条約やバラスト水管理条約等の遵守について適切に対処し、国際的な動向を把握しながら、海洋投入処分の許可制度の適正な施行を行っている。今後も引き続き海洋環境の保全に向けて国際的な連携の下、国内における廃棄物の海洋投棄の規制等による海洋汚染の防止を図る。</p> <p>○海洋ごみ対策については、海岸漂着物処理推進法に基づき関係部局とも連携しつつ、自治体に対する財政支援等による回収・処理、国内での廃棄物の適正処理等の推進による陸域等からの海洋ごみの発生抑制、海洋中におけるマイクロプラスチックに係る日本周辺海域等の分布状況や実態把握のための調査・研究を進めた。今後も引き続き取組を進めて行く必要がある。</p> <p>○地盤沈下については、ほぼ目標を達成しているが、引き続き目標達成に向けた取組が必要である。</p>

評価結果	次期目標等への反映の方向性	<p>○測定指標1. 公共用水域における水質環境基準の達成率(健康項目)(%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質環境基準健康項目は国民の健康を保護を目的としたものであり、引き続き100%達成を目標として設定することが妥当と考える。</li> <li>・引き続き適切な水質環境基準健康項目の見直しを行うとともに、適宜、測定指標も見直すこととする。</li> <li>・達成率も参考に、引き続き適切な水質環境基準健康項目の見直しを行う。</li> </ul> <p>○測定指標2. 公共用水域における水質環境基準の達成率(生活環境項目BOD/COD)(%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質環境基準生活環境項目は生活環境を保全することを目的としたものであり、引き続き100%達成を目標として設定することが妥当と考える。</li> <li>・引き続き適切な水質環境基準生活環境項目の見直しを行うとともに、適宜、測定指標も見直すこととする。</li> <li>・達成率も参考に、引き続き適切な水質環境基準生活環境項目の見直しを行う。</li> </ul> <p>○測定指標3. 地下水における水質環境基準の達成率(%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質環境基準は適切な地下水管理を目的としたものであり、引き続き100%達成を目標として設定することが妥当と考える。</li> <li>・引き続き適切な水質環境基準の見直しを行うとともに、適宜、測定指標も見直すこととする。</li> <li>・達成率も参考に、引き続き適切な水質環境基準の見直しを行う。</li> <li>・特に硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素については、硝酸性窒素等地域総合対策ガイドライン等を用いて、地域における総合的な対策を推進支援等の取組を実施する。</li> </ul> <p>○測定指標4. 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等(%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質環境基準生活環境項目は生活環境を保全することを目的としたものであり、引き続き100%達成を目標として設定することが妥当と考える。赤潮の発生件数については、赤潮が人為的な要因によらず発生することもあるため、引き続き具体的な数値目標は設定しないことが妥当と考える。</li> <li>・引き続き適切な水質環境基準生活環境項目の見直しを行うとともに、適宜、測定指標も見直すこととする。赤潮の発生件数は、これまでと同様、具体的な数値目標は設定しないものとする。</li> <li>・閉鎖性海域における水質環境基準生活環境項目の達成率や赤潮の発生件数を踏まえ、引き続き目標達成に向けた取組を進めて行く。</li> </ul> <p>○測定指標5. 地盤沈下監視を実施した地域の内、2cm/年を超える地盤沈下が発生していない地域の割合(%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤沈下量の目標は、地盤沈下による建造物の損壊や洪水時の浸水増大等の被害の防止を図るものであり、引き続き100%達成を目標として設定することが妥当と考える。</li> <li>・上記の妥当性から、これまでと同様の目標を設定する。</li> <li>・全国の地盤沈下状況については、引き続き、全国の自治体から報告を受け、取りまとめ結果を自治体等へ発信することで、地盤沈下防止に係る積極的な働きかけを図る。</li> </ul> <p>○測定指標6. 陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量の目標については、海洋環境の保全に向けて、国内における廃棄物の海洋投棄の規制等による海洋汚染の防止を図ることを目的としたものであり、引き続き陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量ゼロの達成を目標として設定することが妥当と考える。</li> <li>・陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トン)については、平成30年度以降はゼロを達成し続けているが、引き続き陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量が発生しないよう必要な処置を講じる必要があり、これまでと同様の目標を設定する。</li> </ul>
------	---------------	---

学識経験を有する者の知見の活用	<p>○中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会において、「瀬戸内海における今後の環境保全の方策の在り方について」審議され、令和2年3月に答申がなされた。</p> <p>○有明海・八代海等総合調査評価委員会及び二つの小委員会において、有明海・八代海等の再生に向けた評価について検討を行った。</p>
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<p>○公共用水域水質測定結果(環境省)</p> <p>○地下水質測定結果(環境省)</p> <p>○全国の地盤沈下地域の概況(環境省)</p>
---------------------------	--

担当部局名	水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室 海洋環境室 地下水・地盤環境室	作成責任者名	筒井誠二(水環境課長) 行木美弥(閉鎖性海域対策室長) 山下信(海洋環境室長) 筒井誠二(地下水・地盤環境室長)	政策評価実施時期	令和3年8月
-------	---	--------	---	----------	--------

4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等

別紙

東京湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	基準値	実績値					目標値
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	-年度
	—	63.2	63.2	63.2	68.4	—	100
		100	66.7	100	100	—	100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
伊勢湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	基準値	実績値					目標値
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	-年度
	—	62.5	43.8	50.0	62.5	—	100
		85.7	85.7	85.7	85.7	—	100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
大阪湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	基準値	実績値					目標値
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	-年度
	—	75.0	66.7	66.7	66.7	集計中	100
		100	100	100	100	集計中	100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
瀬戸内海(大阪湾を除く)における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	基準値	実績値					目標値
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	-年度
	—	74.3	74.3	72.3	77.0	集計中	100
		98.2	96.5	96.5	96.5	集計中	100
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	
赤潮の発生件数[件] (瀬戸内海/有明海/八代海)	基準値	実績値					目標値
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	年度
	—	78/39/19	71/38/13	82/33/13	58/32/10	集計中	—
年度ごとの目標値		—	—	—	—	—	